

お米を未来へ

椎葉小学校 五年 玄場 禾乙

わたしは、家族で行くキャンプが毎回楽しみです。キャンプでは、いつも当たり前にあるものを自分たちで準備していきます。例えば、飯盒でたくこともそうです。いつもは、すい飯器のスイッチをおすと勝手にたき上がりますが、飯盒でたくと火加げんを調節したり、時間を計ったりしなくてはいけません。そうして手間をかけてたけたお米を食べると、家族で

「おいしいね。今回もうまくたけたね。」

と夕食がいつも以上にもり上がります。わたしにとって、お米が一番身近な食べ物です。

わたしの小学校では、一年間を通して米作りの体験をしていました。田植えの時には、どろどろの田んぼに入り、みんなで力を合せてなえを植えていきます。稲刈りでは、固い田んぼに入ってから稲を刈っていきます。田植えも稲刈りもこしを曲げてたくさんの量を作業するのはとても大変だと思いました。わたしの住んでいる椎葉村では、お米を作っている人がたくさんいます。田植えから稲刈りまでの約五か月間毎日田んぼの様子を見に行って水の量を調節したり、

草取りや草刈りをしたりしているそうです。わたしは、大変だなあと
思って働いているのを見ているのですが、働いている人は楽しそうに米
作りについてのことを話しています。作る人の心がこもった食べ物
を食べているわたしたちは、笑顔でいられるのだと思います。

最近はお米の消費量が少なくなっているそうです。つまり、お米
を食べる人がへつているということです。そこで、お米の良さについ
て調べてみました。お米には、のうや体のエネルギーになる炭水化物
などの栄養素があります。炭水化物が不足すると、体がつかれやすくな
ったり、一つのこと集中できなくなってしまうそうです。わたし
たち子どもは勉強したり、運動したり、遊んだりして過ごしています。
だから、お米を食べないと、わたしたちはいろいろな場面で自分の力
を発きできないということです。お米は昔から他の食品にも変える
ことができます。例えば、せんべい、だんご、米油、しょうちゅうな
どがあり、いろいろな食の楽しみ方ができるのも、お米のよさだと思
います。最近では、お米を使った食べ物以外の商品もあります。お米
を使った、クレヨンやつみき、ねん土などがあり、小さい子どもが口
に入れても、安心できる商品となっているそうです。わたしは、たく
さんの人にこのような商品を通してお米に親しんでほしい、お米を

もっと好きになって食べてほしいというお米を作る人たちの気持ち
がこめられていると思います。

SDGSでは、「つくる責任つかう責任」として、持続可能な生産
消費形態を確保するという目標があります。食の大切さや地球の未
来についてもっと勉強して、自分でできることを実行していきたい
です。